

平成 31 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①工業教育の特色を活かし、社会で必要とされる専門性の向上を図る教育課程を提供する。</p> <p>②自ら課題を発見し解決する力の育成と主体的に学ぶ意欲の向上を図る。</p> <p>③学校行事や生徒会活動を通じ、自他の多様性を尊重させ、生徒の主体的な活動の促進を図る。</p>	<p>①新学習指導要領を踏まえ、かつ、生徒の実情にあった教育課程について、評価及び検討を行う。</p> <p>①工業に必要な資格取得の合格率をさらに向上させる。</p> <p>②生徒主体の参加型授業を定着させ、生徒の意欲向上につなげる。</p> <p>②企業研究・課題研究・実習などで、主体的に学ぶ意欲の向上をめざす。</p> <p>③生徒会行事の運営を通して、生徒の自立心を育成させる。</p>	<p>①教育課程の工業科目における専門性の向上と、共通科目の充実を図る。</p> <p>①向工ジュニアマイスター制度のさらなる浸透を図るとともに、資格取得に向けて一層の指導を行う。</p> <p>②引き続き、計画的な授業改善に取り組み、教科を超えた研究授業・協議を通して、全教科で参加型授業の実施・展開・発展をめざす。</p> <p>②出前授業などを積極的に実施し、外部講師等の有効活用を図る。</p> <p>③学校行事等において、企画・準備段階から生徒が取り組むように導く。</p>	<p>①教育課程の評価及び検討ができたか。</p> <p>①資格取得合格者が昨年度より増加したか。また、ジュニアマイスター申請者が増加したか。</p> <p>②生徒による授業評価の学習努力、意欲的な取組において、85%の生徒が「あてはまる」と回答できたか。</p> <p>②出前授業後のアンケートにおいて、85%の生徒が「参考になった」と回答できたか。</p> <p>③学校行事等において、生徒が自主的に活動できたか。</p>	<p>①学習指導要領の改訂に備えた情報収集・研究に努め、各科へ情報を提供した。</p> <p>②前期・後期に研究授業期間を設定し、生徒参加型の授業展開について情報共有した。また、生徒による授業評価では、学習努力と意欲的な取組で 78%の回答を得た。</p> <p>③体育祭、文化祭及び向工チャレンジカップなどの行事を生徒会中心が中心となり主体的な活動ができた。</p>	<p>①新教育課程作成に向けた検討の具体的準備計画立案を進める。</p> <p>②生徒による授業評価では、「意欲的に努力している」という回答が 74%と高いが、学力の定着に結び付ける取組を引き続き授業研究の課題として進めたい。</p> <p>③ボランティア委員会等の関わりをより深め、今まで以上に生徒会中心の主体的な活動ができるよう推進する。</p>	<p>①ジュニアマイスターの取得状況が昨年と比較して飛躍的に増えていることを評価する。それぞれの資格がどんな仕事に必要なのか生徒が認識している結果だと思う。</p> <p>②授業については、生徒からの評価も大切だが、生徒が主体的に参加、活動できる授業をお願いする。</p> <p>③生徒会が中心となり、地域においての取組の充実もお願いしたい。</p>	<p>①新教育課程の検討については、具体的な取組にまで至らなかったもので、具体を検討していきたい。</p> <p>①引き続き、資格取得の意義から丁寧に説明していく。</p> <p>②生徒が主体的に取り組める授業が増えてきているが、その授業改善が教員個々のものとなっている。</p> <p>③学校生活全般において、全生徒の主体的な取組としていきたい。</p>	<p>①教務・企画研究グループが中心となり、研究チームを立ち上げていきたい。</p> <p>①資格取得を生徒の学習意欲向上につなげていけるよう、引き続き、生徒のモチベーションを上げられるよう指導していく。</p> <p>②教務・企画研究グループが中心となり、引き続き、組織的な授業改善を行っていく。</p> <p>③学校行事だけでなく、日々の学校生活全体で自主性、主体性を培えるよう指導していく。</p>
2 生徒指導・ 支援	<p>①自己の成長を意識させ、社会人としての基礎力を身につけさせる。</p> <p>②部活動を通じて、責任感、協調性、自主性の涵養を図る。</p>	<p>①生徒個々に応じた生徒指導・支援を専門職員（SC、SSW）や外部機関等と連携しながら進める。</p> <p>①いじめ等の問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②部活動を通して、生徒の自立心や行動力を育成させ、生徒が主体的に、責任感を持って実行できる力を養う。</p>	<p>①生徒の情報を全職員で共有するとともに、きめ細かな対応を図る。</p> <p>①教育相談体制を充実させ、SCやSSWの有効活用を図る。</p> <p>①問題行動の未然防止として、定期的な服装、頭髪及び遅刻指導やいじめに関するアンケート、SNS上のトラブル防止策の検討等を行う。</p> <p>②部長や副部長、マネージャー等を活用し、職員が生徒に寄り添い、各部員が自主的・主体的に取り組むように導く。</p>	<p>①生徒情報交換会を実施できたか。また、必要に応じてケース会議を実施できたか。</p> <p>①SCやSSWの来校日を周知できたか。また、SCやSSWと連携して生徒対応を行うことができたか。</p> <p>①生徒に対する指導において、定期的で組織的な取組ができたか。</p> <p>①いじめに関するアンケート等を実施し、安心して学校生活を送れる環境づくりができたか。</p> <p>②生徒の自主的な取組により、各部活動の活性化が図れたか。</p>	<p>①生徒情報交換会を4月当初に実施、また、ケース会議を必要に応じて行った。</p> <p>①SCやSSWとの連携は多くの生徒・家庭に効果的だった。</p> <p>①再度の指導となるケースがあり、特別指導の件数は増加した。</p> <p>①いじめに関するアンケートの実施は生徒自身の振舞いを振り返るよい機会となった。</p> <p>②部活動や生徒会活動において、生徒の考えを尊重し、新規イベントに挑戦や協力させることができた。</p>	<p>①担任、学年、グループで、生徒の状況を把握、共有する意識が重要、その上で、SCやSSWと連携し、効果的に課題を解決する。</p> <p>①特別指導は、単純に件数が増えたとは見えずに、指導内容と対象生徒の問題行動への理解に視点を置いて慎重に行い、再発防止する。</p> <p>①いじめに関するアンケートの実施を年間2回から学期に1回の年間3回とする。</p> <p>②部活動を充実させる環境整備を推進するとともに、生徒の自立心向上を目指す。</p>	<p>①SCやSSWに任せきりになるのではなく、教員がSCやSSWと情報共有や連携をしながら対応していることを評価する。</p> <p>①特別指導については、引き続き、きめ細かな対応をしてほしい。</p> <p>①警察に講師依頼し、「いじめと犯罪行為」に関する講演を実施することなどを検討してほしい。</p> <p>②部活動については、環境整備を充実させるとともに、自主性を育ててほしい。</p>	<p>①SCやSSWと連携した指導・支援により、多くの悩みや課題が問題として顕在化することなく解決した。</p> <p>①いじめについては、引き続き、最重要項目ととらえ、指導を行っていく。</p> <p>②部活動については、活性化を支援していくが、自主性が大切なことと、アルバイト等との兼ね合いもある。</p>	<p>①次年度、SCについては単独校、SSWについては、引き続き、拠点校として、より有効活用していく。</p> <p>①いじめに関するアンケートについては、年間2回から3回に増やし、いじめは絶対に許さないという気持ちで指導していく。</p> <p>②環境整備をして、部活動の活性化を図っていく。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路実現に向けた進路指導の充実を図る。	①56期生全員の、希望に沿った進路実現を図る。 ②外部機関との連携を深め、信頼関係の強化を図るとともに、有効活用する。	①進路支援グループ、担任及び学年等、職員相互の連絡を密にし、随時、進路希望を把握する。 ①授業を通して、進路意識の高揚、啓発を図る。 ①授業、学年行事等で求められる資質育成のためのプログラムを実施する。 ②連絡を密に取りながら、入試説明会、出前授業、施設見学などを通して、マッチング重視の支援を行う。	①定期的な希望調査の他、授業等も活用して、最新の進路希望を把握する。 ①一般教養テスト、面接想定姿勢、受答え、文章構成、表現、PR等及び履歴書の指導などを実施する。 ①②生徒からの質問、進路室利用、オープンキャンパス、企業説明会への参加等、生徒からの積極的なアプローチがあったか。	①進路支援グループからは、毎月、来校企業の情報や廊下に掲示するとともに、教員向け企業説明会・進学説明会での情報を随時提供した。また、それを受けて、生徒相談に乗り、進路状況の把握に努めた。 ②積極的な進路室利用、授業時、休み時間の生徒からの質問等、主体的な取組がみられた。	①希望する職種の内容把握、企業の経営環境、見通し等及び教員向けのセミナー等を活用し、より充実した進路指導に臨む。そうした意味でも外部機関との連携を深めていきたい。	①学校幹旋の就職が充実している。今後もきめ細かな進路指導をお願いする。 ②外部機関との連携については、内容を精査、改善しながら積極的に進めてほしい。	①進路講演会や放課後進路セミナーをはじめ、充実した取組を行うことができた。3年生207名中、進路未定者は6名で、特に、就職については、保護者とも連携しながら、マッチング重視の指導ができた。 ②川崎市をはじめ、外部との連携を適切に行うことができた。	①多様な生徒を指導するため、生徒指導同様に進路指導においても進路支援グループや担任団をはじめ、組織的な指導を検討する必要がある。 ②外部機関との連携強化については、内容を精査した上で積極的に進めていく。
4	地域等との協働	「地域とともに育つ向工」を実現し、「地域で活躍する向工生」を育むために、地域社会との連携による教育活動を推進する。	①「地域とともに育つ向工」を実現するため、本校のホームページ、説明会等を活用し、教育活動を発信する。 ②「地域で活躍する向工生」を育むために、他校種、企業との連携事業を推進する。	①各種イベントを活用した施設・設備の魅力や学校活動を積極的に発信し、地域への広報活動を行う。 ②生徒自らが各種イベントに参加・運営することで自ら考える力やコミュニケーション能力を育む。 ②他校種、企業との連携を通じた教育活動の推進を行う。	①学校での活動をホームページ等で積極的に発信することができたか。 ②各種イベント、学校活動に取り組むことで昨年度よりも自ら考える力やコミュニケーション能力を育むことができたか。 ②各種イベント、地域の活動に生徒が協力できたか。	①ホームページでの情報発信については、体験教室の案内、部活動の活動状況などの情報をこまめに更新した。 ②文化祭や向工チャレンジカップでは、生徒自らが考え、運営し、学校説明会では、生徒が主体となり進行することができた。また、体験教室では、生徒が講師となり参加者と交流し、コミュニケーション能力の向上が図れた。	①部活動の紹介や学科の紹介など中学生向けの情報の充実を図る。 ②生徒会と協力し、生徒の参加率を高め、生徒自らが行事の運営を行うことで参加生徒が達成感を得られるよう、引き続き、生徒に対してきめ細かな指導を行う。	①災害時の情報発信にアクセス集中等若干の不安があるが、全般的によく情報発信できていると思う。 ②文化祭の催し物の説明を生徒が行っている場面を多く見かけ、プレゼンテーション能力の向上にも取り組んでいると感じた。 ②久地駅や武蔵溝ノ口駅での自動ハンドベルの演奏を毎年楽しみにしている。	①今年度から本格実施された学校ホームページ「コンテンツ管理システム」を有効活用し、本校の教育活動を適切に情報発信することができた。 ②地域で活躍する向工生を育むためにボランティア活動や出前授業等様々な教育活動を行うとともに、向工をより一層理解してもらえるよう努めた。	①「コンテンツ管理システム」を有効活用するため、ホームページ担当者だけでなく、教職員の誰でもシステムを活用し情報発信できるようにしていきたい。 ②校内外のイベントにおいて、生徒が自主的に参加、活動できるよう指導していく。
5	学校管理 学校運営	①校内の美化意識の向上と防災教育を推し進め、安全安心な教育環境を構築する。 ②すべての職員の資質向上を図るとともに、風通しの良い職場づくりをめざし、教職員の事故不祥事を未然に防止する。	①生徒が校内美化に対する意識及び安全並びに防災に対する意識を日常のあらゆる場面で持ちながら行動できるように取り組む。 ②職員の資質向上に向け、職員の連携及び不祥事防止に取り組む。	①全校運動として「整理、整頓、清潔、清掃、躰、安全」の6S運動を展開し、安全、環境教育の推進を図る。 ①全生徒全職員が防災意識を高めるよう避難訓練等の防災教育を実施する。 ②定期的に不祥事防止等の研修を行う。	①「整理、整頓、清潔、清掃、躰、安全」が昨年度より身に付き、実践されているか。 ①避難訓練や学校掲示板の利用等により、迅速な行動や安否確認等の連絡訓練が効果的に実施できたか。 ②全職員で不祥事ゼロを実現できたか。	①全校で6S運動を展開し、学校生活全般において意識を持たせることができた。廊下・階段のごみ箱を減らしたが、床にごみが散乱することはなく、生徒の美化意識は向上していると言える。 ①避難訓練では、点呼終了までの時間を短縮することができた。また、災害時に生徒が掲示板を見ていることが確認できた。 ②現時点で不祥事はゼロである。	①環境委員会を活用した取組を考えていく。 ①掲示板にアクセスが集中した際にもきちんと見ることができるよう整備が必要である。 ②引き続き、不祥事ゼロを継続していく。	①向工は、校舎の内も外もきれいな印象である。それは、教職員の指導や生徒一人ひとりの意識の表れであると思う。 ①今年度は、大きな台風被害があり、防災意識の大切さを身を持って知ることができたが、さらなる防災教育をお願いしたい。	①全校で6S運動を学校生活全般で行っているが、マンネリ化や形骸化しないよう取り組みたい。 ①避難訓練については、点呼終了までの時間を短縮することができたが、生徒が訓練に慣れてしまっているとも言える。 ②引き続き、全職員が当事者意識を持ち、不祥事ゼロを継続していく。	①6S運動を学校生活全般で行っているため、教職員からの指導だけでなく、生徒が自主的・主体的に取り組むよう意識を向上させていく。 ①避難訓練については、生徒の防災に関する当事者意識の向上に努めていく。